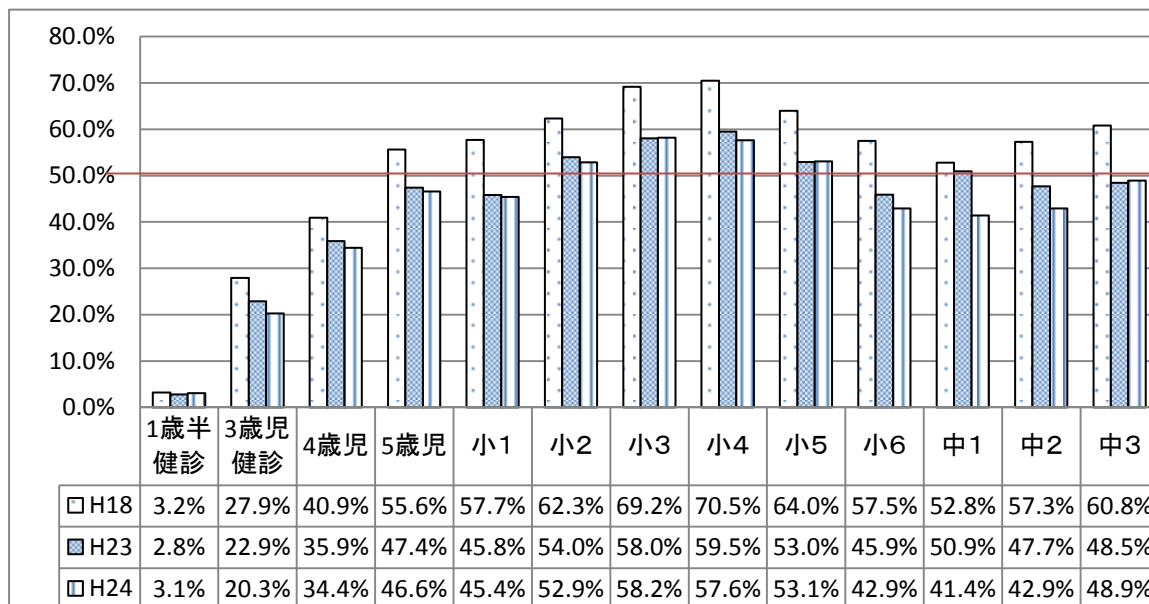


ア 乳幼児・学齢期のデータ

① 幼児期・学齢期におけるう蝕有病者率（H18・H23・H24年度）

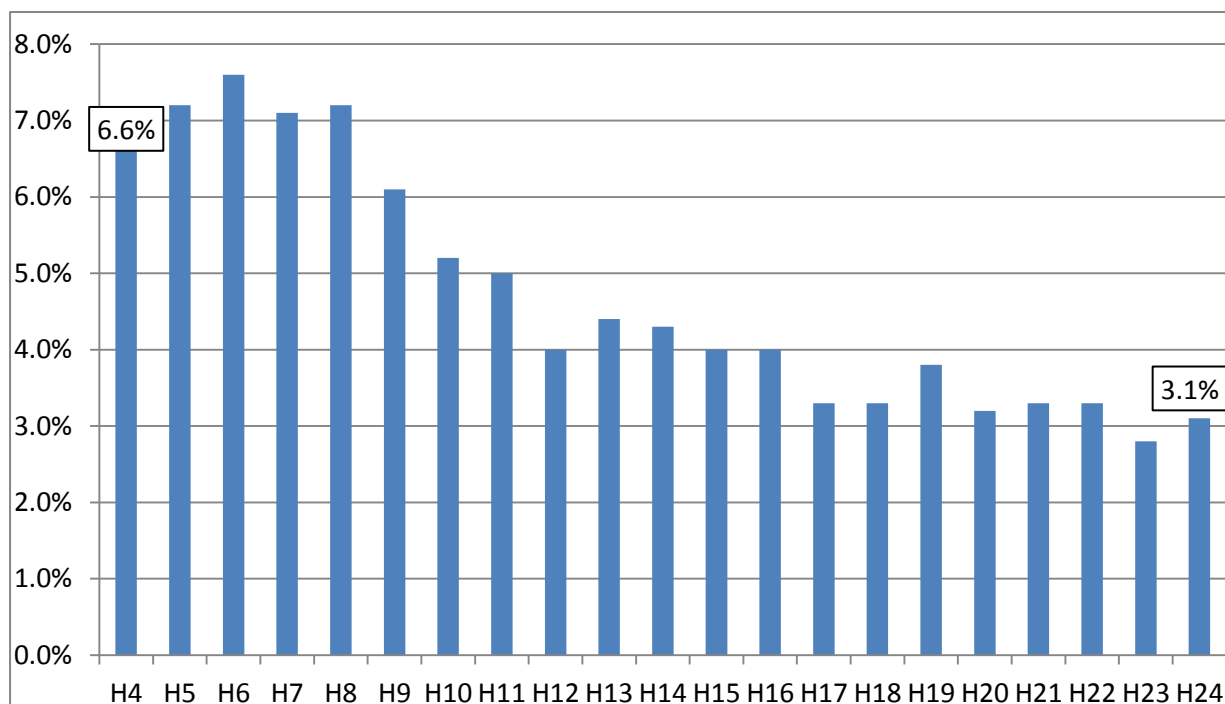
う蝕有病者率は各年齢ともに減少しているが、児童・生徒の約半数はう蝕病者である。



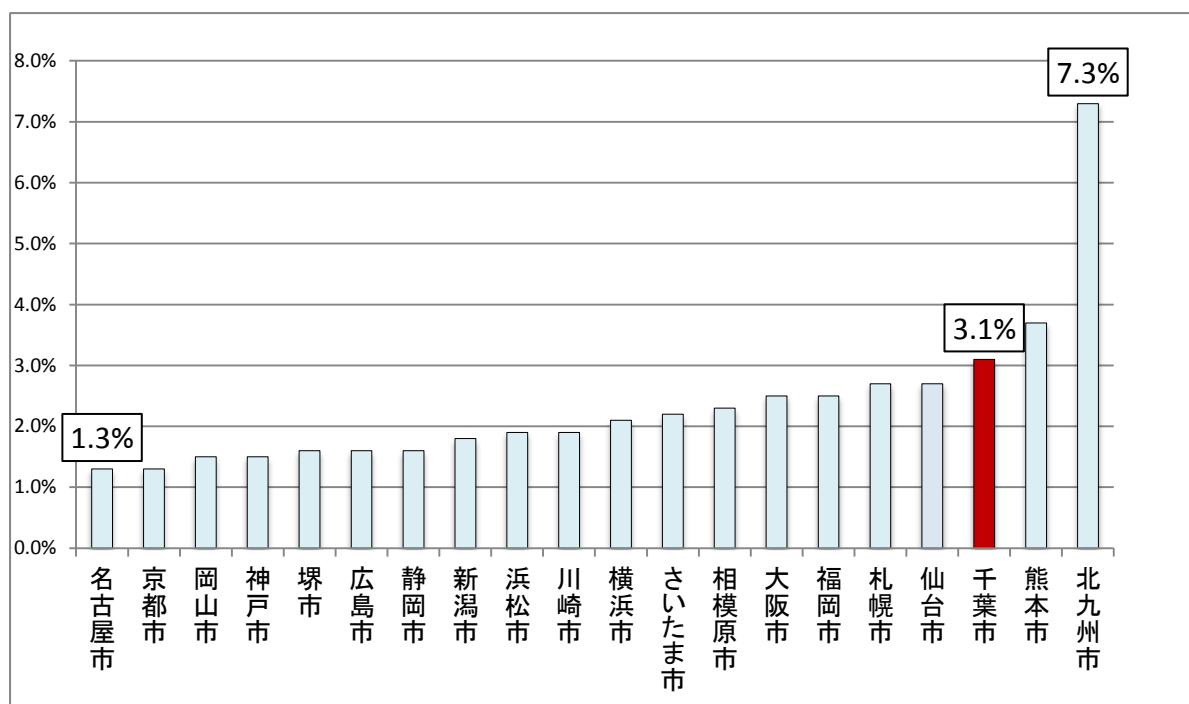
* 4歳・5歳は公立保育所の定期歯科健康診査の状況

② 1歳6か月児健康診査う蝕有病者率年次推移

平成4年の6.6%から平成24年の3.1%に20年間で半減した。

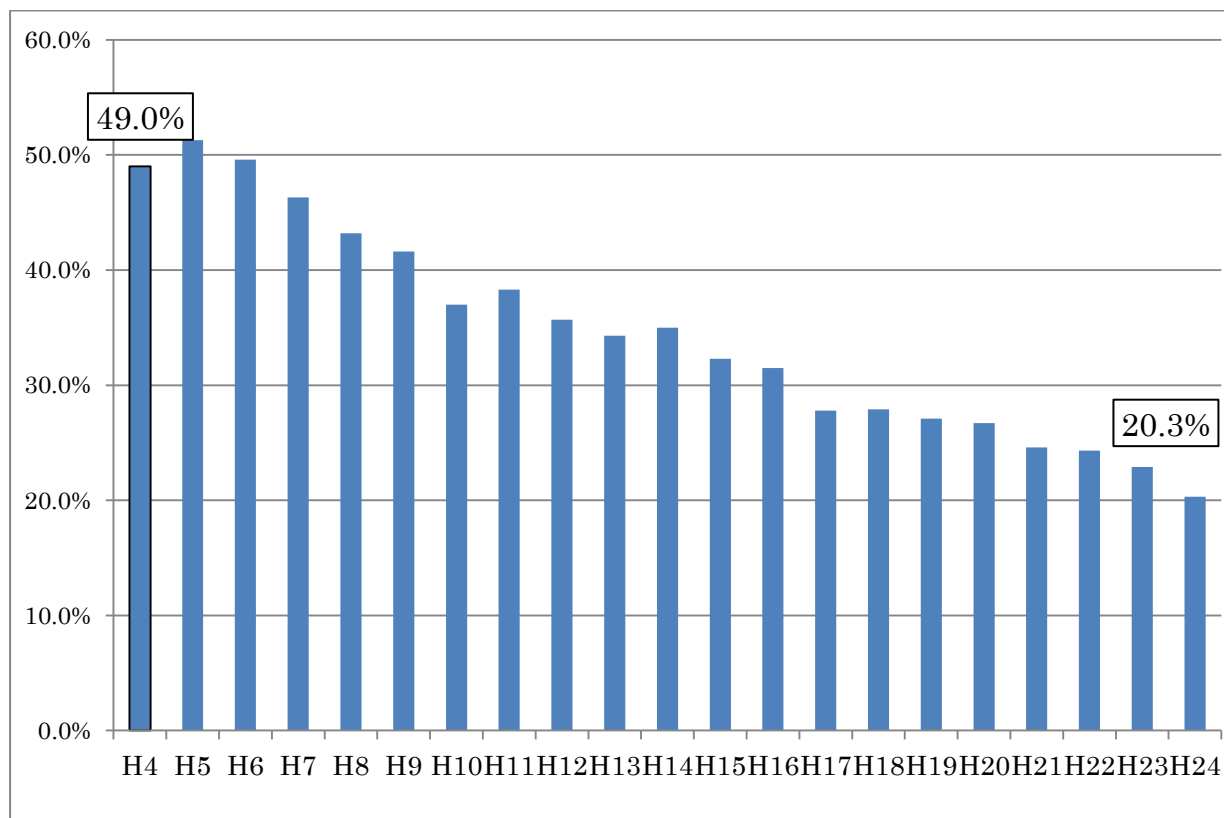


③ 平成 24 年度 1 歳 6 か月児健康診査う蝕有病者率（政令指定都市）



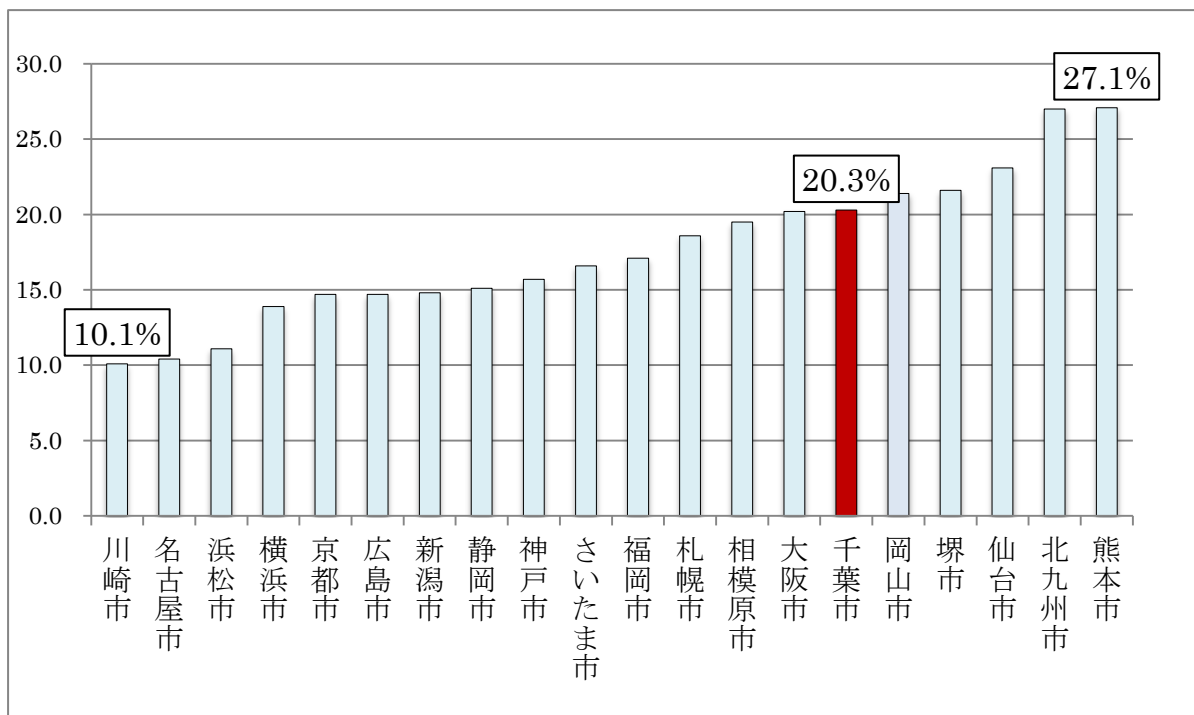
④ 3 歳児健康診査う蝕有病者率年次推移

平成 4 年度の 49.0%から平成 24 年度の 20.3%と半数以下に減少した。



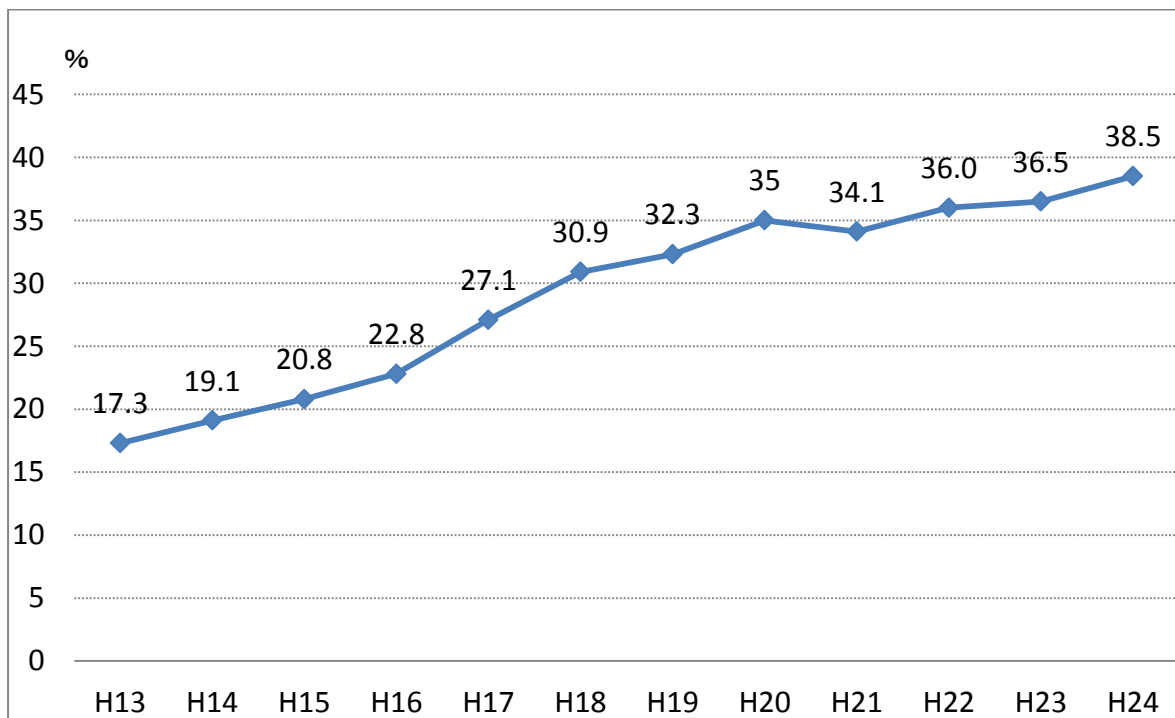
⑤ 平成 24 年度 3 歳児健康診査う蝕有病者率（政令指定都市）

1 番少ない川崎市の約 2 倍の有病者率である。



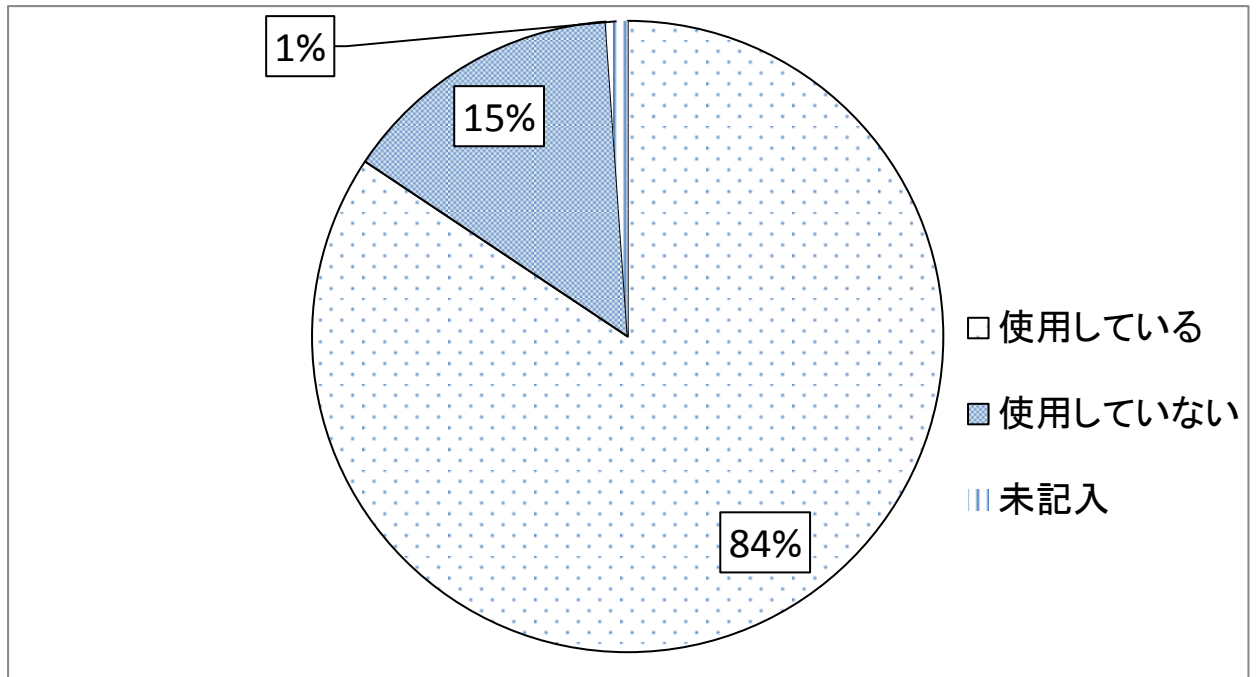
⑥ 3 歳児のフッ化物歯面塗布者率年次推移

平成 13 年度 17.3%から平成 24 年度は 38.5%と 2 倍以上増加した。



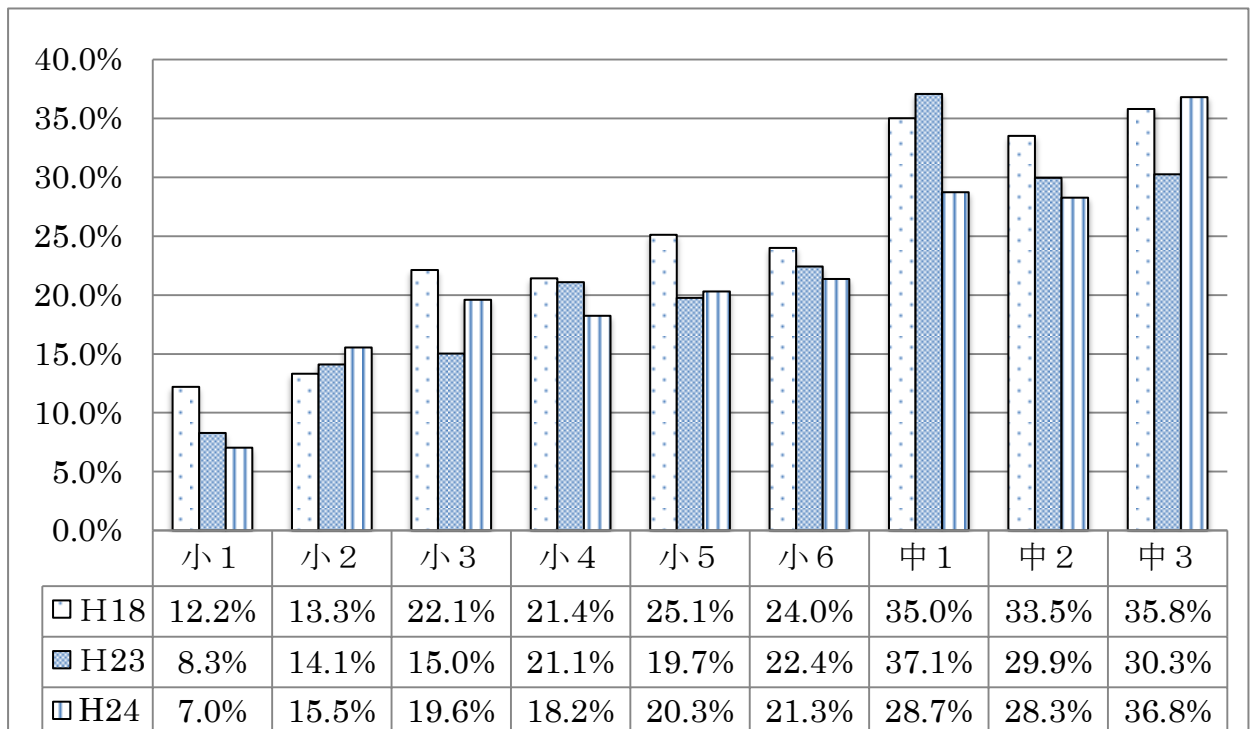
* 3 歳児健康診査問診票集計結果

⑦ 3歳児健康診査データ フッ化物配合歯みがき剤の使用の有無



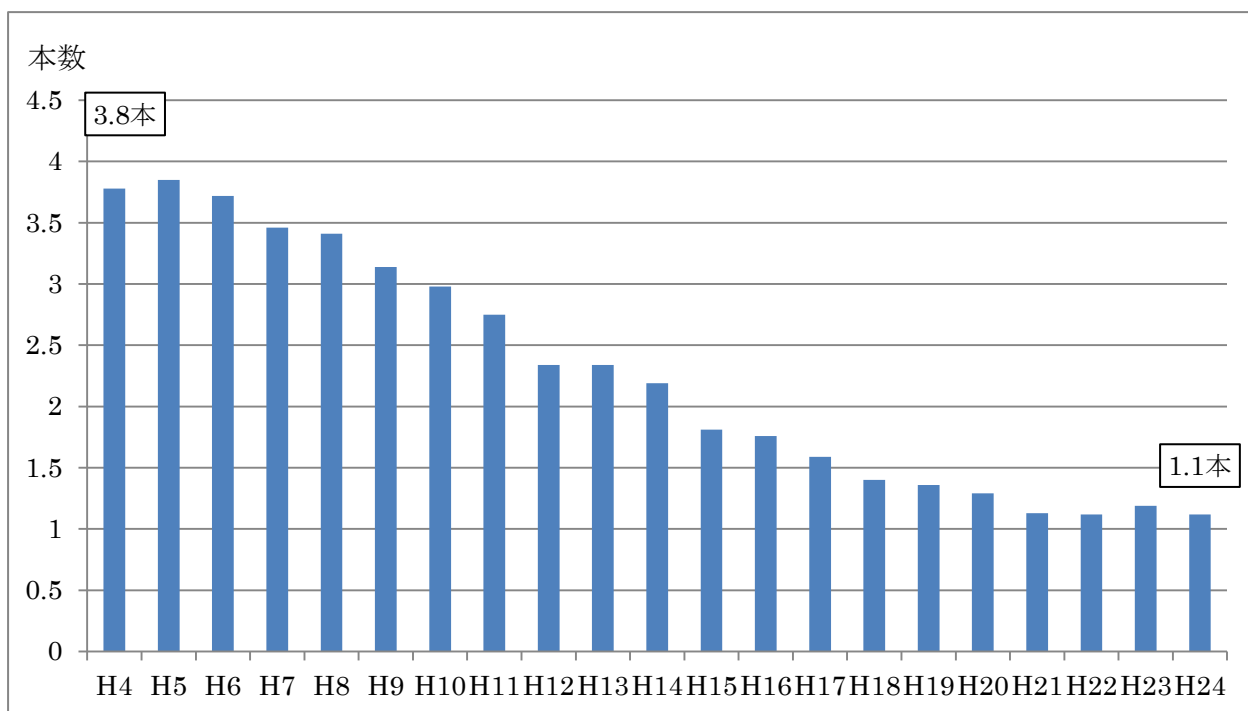
N=373人

⑧ 学齢期における歯肉炎の要観察・要精検者の割合 (H18・H23・H24年度)



⑨ 12歳児の一人平均う歯本数の年次推移

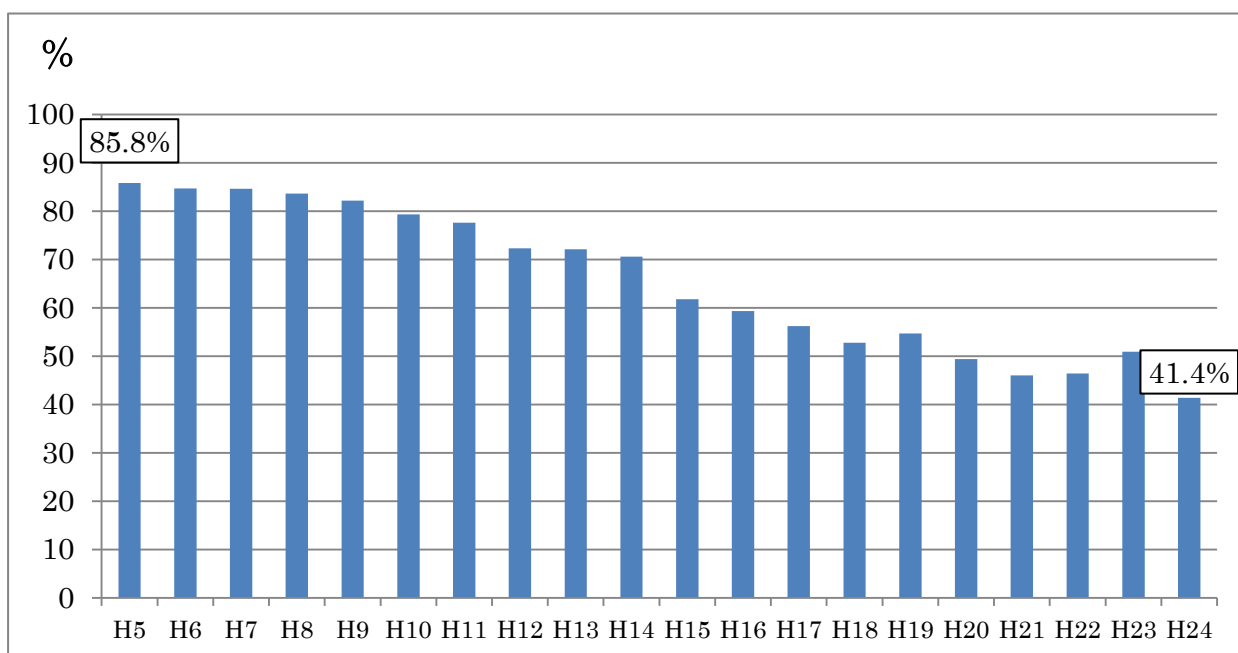
平成4年度の3.8本から平成24年度の1.1本と減少した。



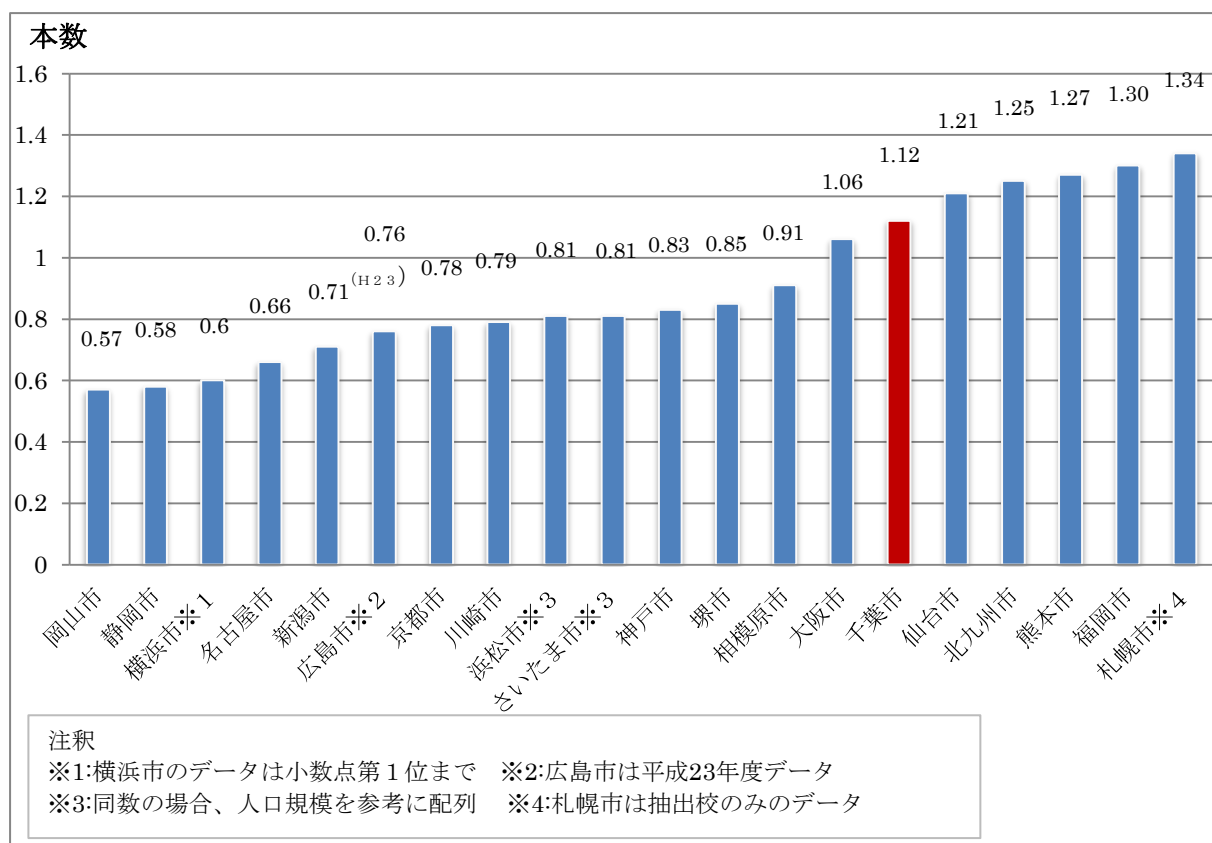
* 学校における定期健康診断の結果

⑩ 12歳児のう蝕有病者率の年次推移

平成5年度85.8%から平成24年度は41.4%と半減した。



⑪ 平成 24 年度 12 歳児の一人平均う歯本数(政令指定都市)



* 新潟市による照会結果

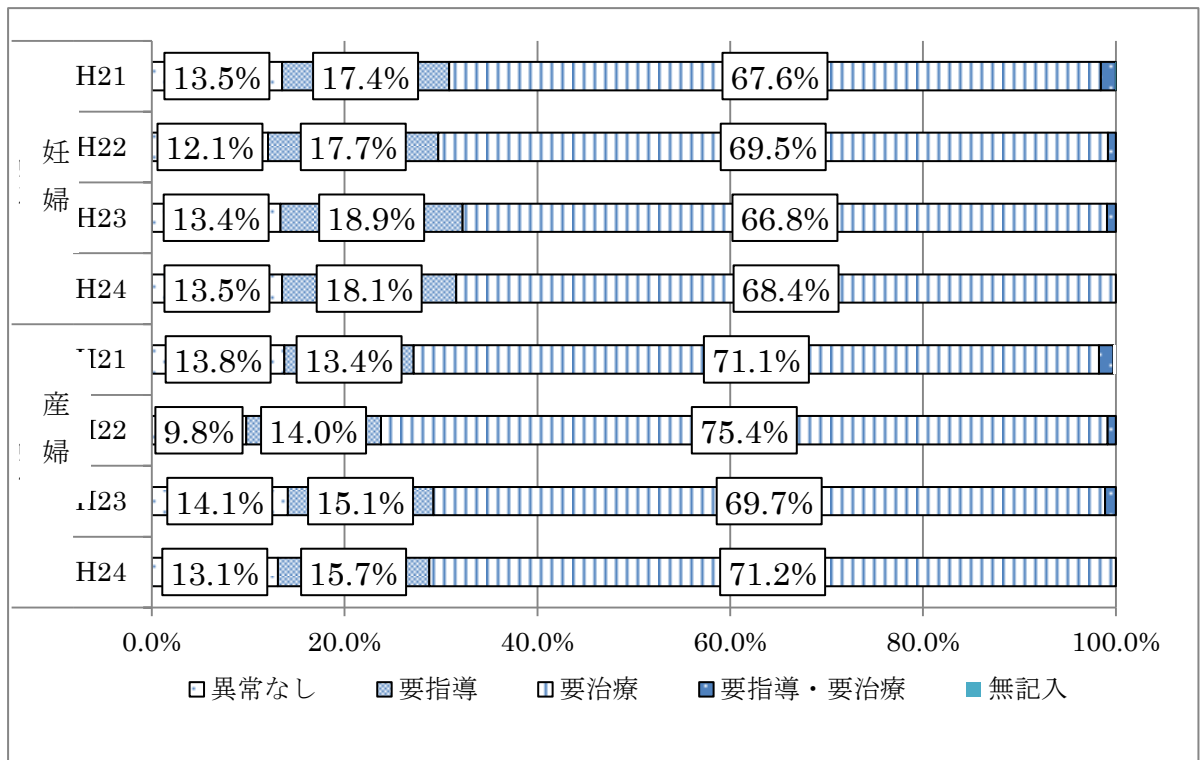
イ 妊産婦歯科健診データ

① 受診状況 (H21~H24 年度)

	妊 婦				産 婦			
	H21	H22	H23	H24	H21	H22	H23	H24
対象者数 (人)	9,115	8,730	8,439	8,332	8,339	8,310	7,994	7,900
受診者数 (人)	2,363	2,469	2,322	2,457	2,238	1,645	1,688	1,653
受診率 (%)	25.9	28.3	27.5	29.5	26.8	19.8	21.1	20.9

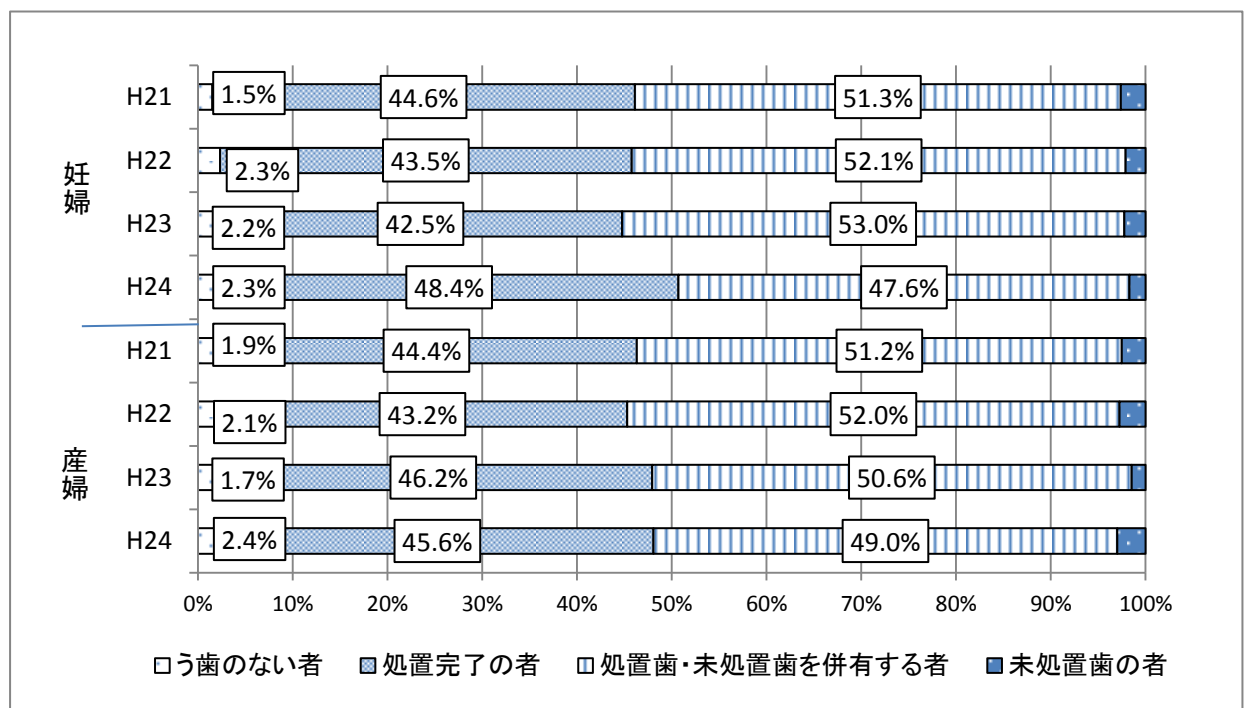
② 所見状況 (H21～H24 年度)

妊婦、産婦ともに約7割の者が要治療であった。



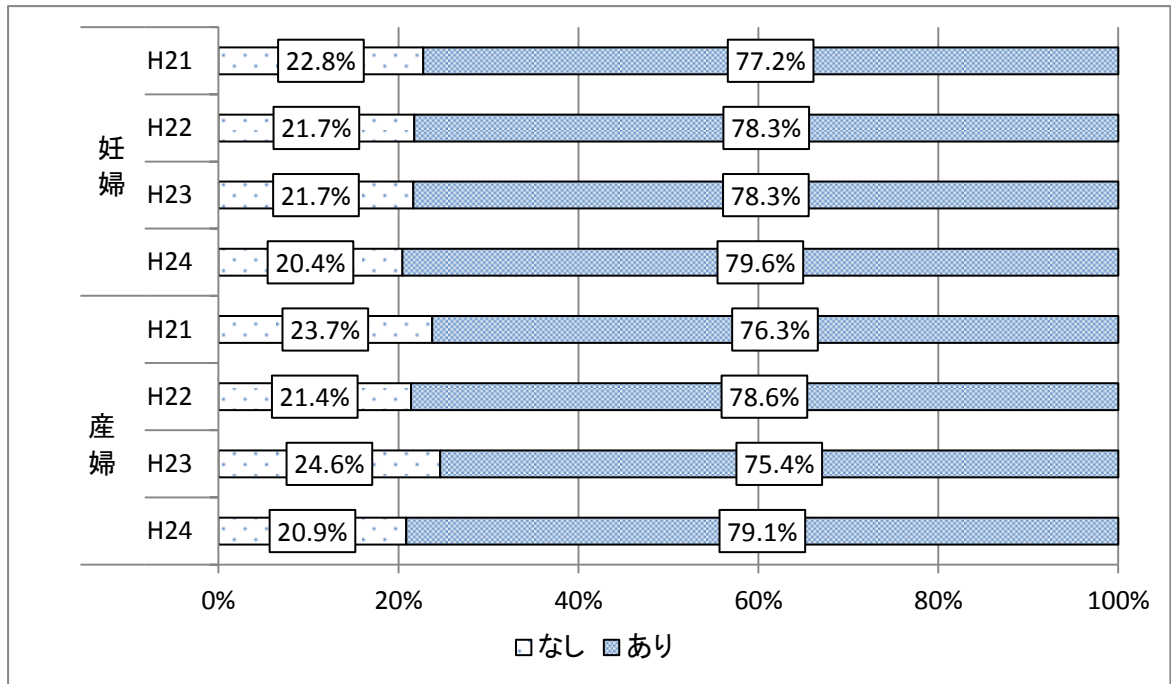
* 異常なし:むし歯、歯石、歯周疾患ともにみられない場合

③ う歯の状況 (H21 から H24 年度)



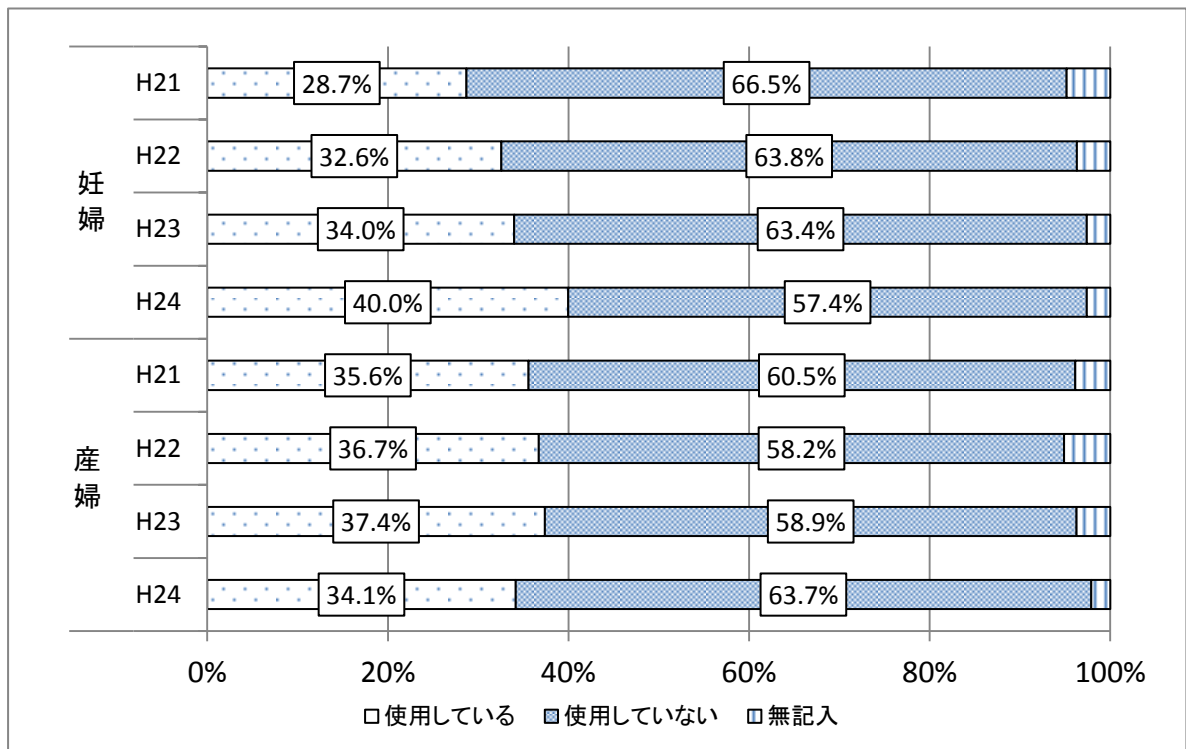
④ 歯周疾患の有無（H21～H24 年度）

妊産婦ともに歯周疾患(一部分でも歯肉炎、歯周炎がある)のある者は約8割であった。



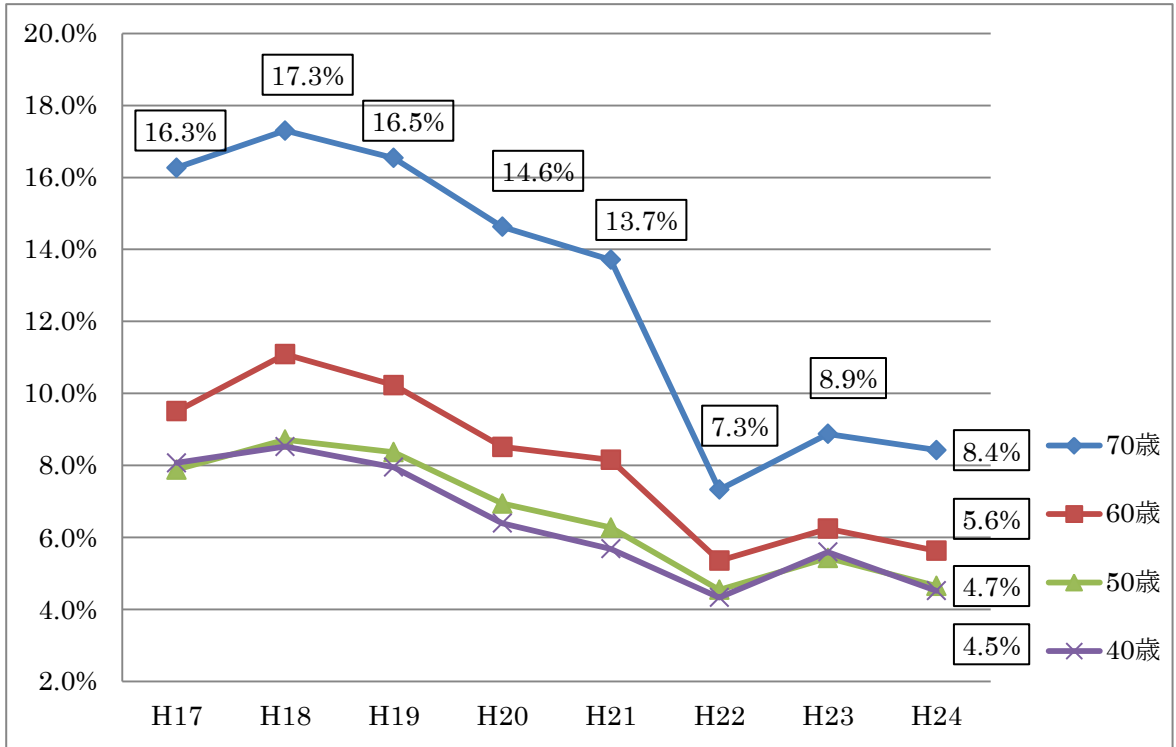
⑤ デンタルフロス等の使用状況（H21～H24 年度）

妊婦においては、デンタルフロス等の使用者が年々少しずつ増加している。

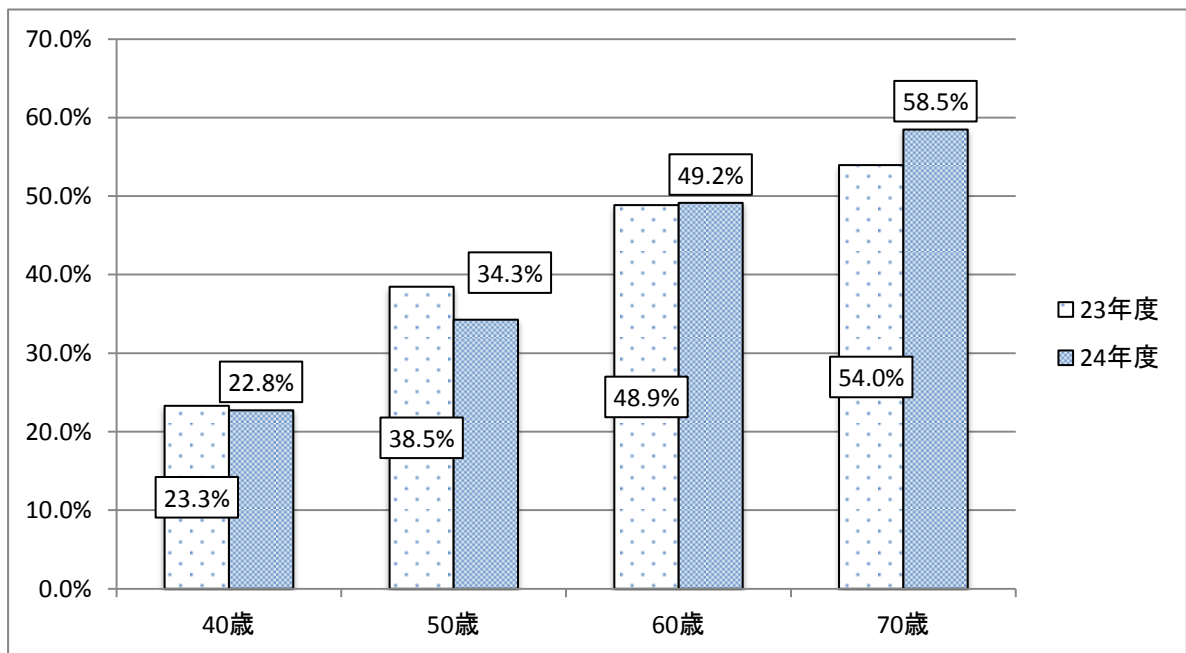


ウ 歯周疾患検診データ

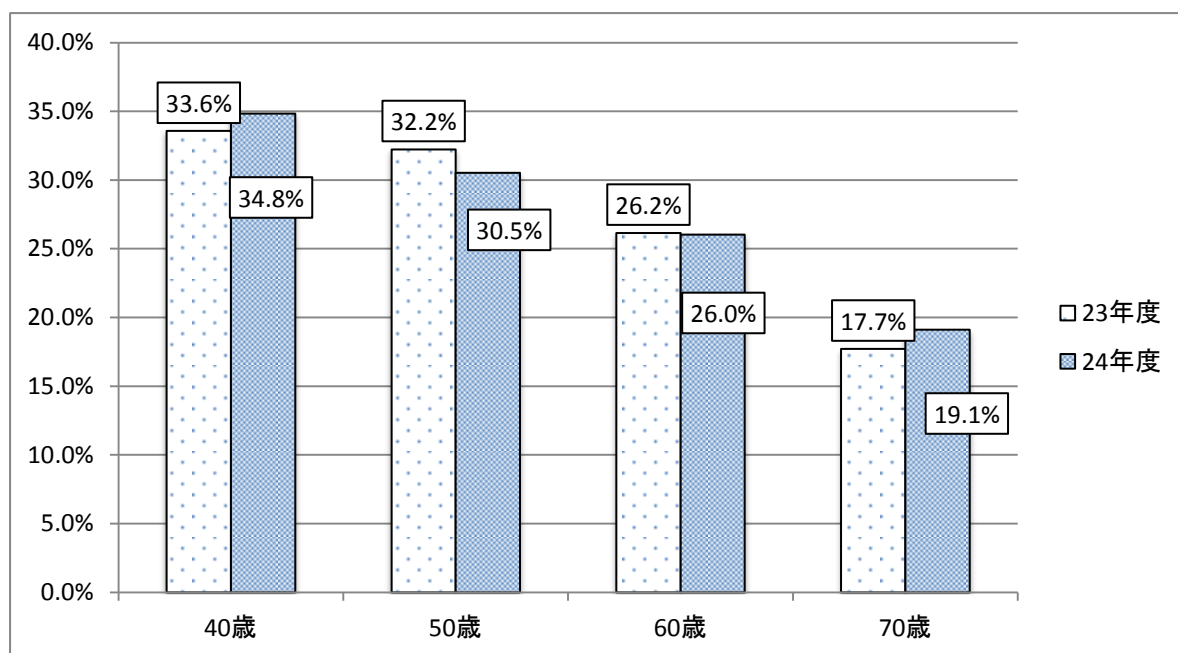
① 受診率の年次推移 (H17～H24 年度)



② 歯間ブラシ使用状況 (H23～H24 年度)



③ デンタルフロス使用状況（H23 から H24 年度）



エ 歯っぴー健口教室について

（目的）

高齢者が一生おいしく、楽しく、安全な食生活を営むために、口腔機能の向上のための口腔ケア・口腔体操を知り、日常的に実践できるようになる。教室参加をきっかけに、介護予防や、自身が目指すより健康的な生活が送れるようになる。

（対象）

基本チェックリストの口腔機能に関する項目にて2次予防事業対象者になり、あんしんケアセンターが本事業の参加を必要と判断した方

（内容）

口腔機能向上を図るために日常生活に取り入れられる口腔ケア・口腔体操などの実践を指導する

- 1 ヘルスチェック（血圧測定・脈拍・健康観察）
- 2 口腔機能、口腔ケアに関する健康教育（口腔体操、音楽を取り入れた口腔機能訓練）
- 3 個別相談

（実績）

平成24年 72回 188人（実人数）、462人（延べ人数） 1コース3日間 各区4コース実施

① 事後総合評価の結果

(複数回答)

